

No14 平成27年8月1日



編集発行
和歌山県北山村議会
TEL 0735-49-2331
FAX 0735-49-2207

議会だより



岩場から飛び込むラフティング参加者

平成27年6月定例会が開催されました

平成27年6月定例会補正予算等の審議	P2～3
議員が村政を問う（一般質問）	P4～6
視察報告（災害対策特別委員会）	P7
村民登場「良い本との出会い」北山村商工会 藪本英明	P8
議員コラム「国体に向けて」 葛城健也	P9

平成27年6月定例会 ～補正予算等を審議～

平成27年6月定例会は、6月22日～24日（会期3日間）に開催されました。本会には、平成26年度及び27年度の補正予算について、人事案件が1件、専決処分を求める承認が6件、繰越明許費の報告が2件、平成27年度一般会計及び特別会計の補正予算に関する議案が3件、条例に関する議案が1件、計13件が提出され、慎重審議の結果、それぞれ原案どおり可決承認されました。

- | | |
|--------|--|
| 諮問第1号 | 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて |
| 承認第1号 | 専決処分の承認について（北山村行政手続条例の一部改正） |
| 承認第2号 | 専決処分の承認について（北山村税条例の一部改正） |
| 承認第3号 | 専決処分の承認について（平成26年度北山村一般会計補正予算 第8号） |
| 承認第4号 | 専決処分の承認について（平成26年度北山村簡易水道特別会計補正予算 第3号） |
| 承認第5号 | 専決処分の承認について（平成26年度北山村地域振興事業特別会計補正予算 第6号） |
| 承認第6号 | 専決処分の承認について（平成26年度北山村温泉施設事業特別会計補正予算 第3号） |
| 報告第1号 | 平成26年度北山村一般会計予算繰越明許費の報告について |
| 報告第2号 | 平成26年度北山村地域振興事業特別会計予算繰越明許費の報告について |
| 議案第42号 | 北山村介護保険条例の一部改正について |
| 議案第43号 | 平成27年度北山村一般会計補正予算（第1号）について |
| 議案第44号 | 平成27年度北山村国民健康保険直営診療所特別会計補正予算（第1号）について |
| 議案第45号 | 平成27年度北山村地域振興事業特別会計補正予算（第1号）について |



人事案件
人権擁護委員の推薦につき、意見を求めることについて

人権擁護委員は、地域の中から選ばれて法務大臣から委嘱された人たちです。地域の皆さんの人権相談を受け、問題解決のお手伝いをしたり、人権侵害の被害者を救済したり、地域の皆さんに人権について関心をもってもらえるような啓発活動をおこなっています。本定例会では、「更家正也」氏の後任として、役場OBの「久保治」氏を候補者として推薦したい旨の意見を求められていたもので、満場一致で同氏が人権擁護候補者として適任と議決されました。



平成27年6月定例会 一般会計補正予算概要

予算科目	主な歳出内容	金額(千円)
総務費	LGWANメール改修委託	827
	七色竹原区民会館スロープ設置工事	3,000
	ウェルカム北山村イベント費用	12,730
	おもてなし研修	800
	ふるさと納税WEB構築	1,000
	移住ナビWEB作成委託	200
民生費	有償運送運転手講習会補助金	300
	生活支援ハウス増床設計委託	3,448
	生活支援ハウス増床地質調査	1,286
	高齢者生活福祉センター修繕費	1,296
衛生費	ゴミステーションボックス	225
農林水産業費	林道出谷線開設	△6,000
	林道平田線開設	11,000
商工費	歓送迎看板設置2箇所	9,000
	おくとろ温泉Wi f i整備	1,668
	北山村観光協会補助金	500
土木費	四の川線舗装補修	2,000
	村道中里線舗装補修	1,500
	下尾井地区舗装補修	1,500
	下尾井防火水槽補修工事	1,000



林道平田線開設



村道中里線舗装箇所



歓迎看板(七色)

議員が村政を問う

平成27年6月定例会で次の質問ができました。

●ごみ収集箱
村内何ヶ所かに、設置しているが、老齢化に伴い設置場所又は収集箱を増やすなど、検討していただきたい。

●無人航空機及びラジコンボート
ニユースなどで、取り上げられているドローンは、首相官邸等で見つかり話題となっている。奥瀬公園内は飛行禁止、又渡の公園は、許可するとか、この点について考えはあるのか？（看板設置）また、湖水を利用しての観光につなげることは？

●旧森林組合の建物について
10年程前、七色区で建物を利用して、野菜等を販売したいと申し出た時、耐震性がないので使用許可は難しかったと聞いている。北山村の入り口であり、景観等も悪いので取り壊してはどうか？

久保 学

●定住促進施策の進捗状況について
住宅取得補助金、空き家改修費用の補助金、出産祝い金補助金、子供の医療費18歳までの無料化、小・中学校での児童生徒の給食費の無料化、予算516万4千円の進捗は？

●空き家対策
空き家対策の特別措置法について

久保 隆俊

●支援ハウス居室の増室
財源の確保や人員の体制等の検討が必要であるが、現時点で増室は何室を予定しているのか？

●Uターンを主とした定住促進の取り組み
Uターンの促進へ取り組む考え方はないか？

●集合住宅と戸建住宅の建設について

①集合住宅・温泉施設、じゃばら事業、観光事業の存続には人員の確保が急務である。そのためには、従業員寮的な多目的に利用できる施設が必要である
と考えるがどうか？
②戸建住宅・Uターンを促進すれば当然、戸建住宅が必要になってくると思われるが、現時点での建設計画はどうなっているのか？

●奥瀬道路II期工事開通について
9月にはII期が開通し、今後の観光振興が重要になってくるが、取り組みと展望は？

●職員の村民意識について
地域住民との交流・例えば、祭りなど地域行事への積極的な参加について

山口 賢二

●子育て支援について
保育所での保育年齢の引き下げについて

葛城 健也

和歌山県町村議会議長会

自治功労者表彰受賞

去る5月18日、和歌山県町村議会議長会の総会におきまして、地方自治功労に対する表彰がありました。当議会からは、葛城議員が、議員在職11年以上で、その功績が認められ表彰を受けられております。

本定例会では開会前に、伝達式が行なわれ、亀田議長から、表彰状と記念品が贈られました。



議員が村政を問う（一般質問）

ゴミ収集箱について
久保学



【質問】老齢化に伴いゴミ収集箱の設置場所を増やすなど見直しを検討していただきたい。

【回答】区の要望により増やした経緯あり。悪臭の問題や確保等、周辺住民の意見も考慮する必要があります。設置箇所の指定を含めて区の要望として、周辺住民及び収集人の意見を考慮し整備したい。

住民福祉課長

北山村の入り口であり、景観等も悪いので取り壊してはどうか？

【質問】ニュースで取り上げられているドローンは、首相官邸での件でも話題となっている。村の公園内での許可制限など考えを伺いたい。看板の設置、また湖水を利用しての観光振興につながる考えはないのか？

【回答】夏場の観光客への対応もある。看板を設置し注意喚起していきたい。七色公園についても原則禁止となるが、周辺河川については電源開発、河川管理者と協議し可能な限り利用できるのであれば協力したい。

観光産業課長

定住促進施策の進捗状況について
久保隆俊



【回答】過去2件、同施設の利用の許可願いがあり、耐震性の問題から許可しなかった経緯がある。七色区として撤去の要望があれば尊重したい。全国の市町村においても、過去に建設された公共施設の老朽等、これら施設の最適化を図る必要性から、平成28年度までに公共施設等総合計画の策定を求められている。撤去費など財政支援（地方債）が得られることから、地元と協議し、同施設の撤去について計画を進めていきたい。総務課長

【質問】地方創生を指し色んな施策が全国で行われているが、北山村においても、過疎化、少子高齢化への歯止めとして、定住促進の充実を図るための施策が前回議会で可決されている。これら5つの地域振興施策について、その進捗状況をお聞かせ願いたい。

総務課長

き家率は18%と高く、対策を必要としている県の一つである。

【回答】
①住宅取得補助金（予算200万円）既に1件200万円の支給あり。今後一件申請予定見込
②空家改修補助（予算200万円）該当なし
③出産祝い金（予算70万円）遡及者10名50万円支給済み。4月以降1件5万円 今後5人25万円見込
④子供医療費4〜5月17人 支給済み。
⑤給食無料化（予算125万円）50万円支給済み
小学生14人中学生7人以上となっている。

●空き家対策

【質問】全国で820万戸あるとされる空き家対策として、特別措置法により今後本格的な対策が講じられる。空き家の判断基準も明記され、和歌山県の空

【回答】行政としての措置には制約がある。今回の特別措置法では、市町村長が特定の空き家に対し生活環境の保全を図るため必要な措置をとるよう指導や助言ができることとなった。ただ、あくまでも実行するのは所有者である。公的資金をもつて対応することには法的な問題もあり難しい。まずは持ち主に對しての助言である。 村長

●無人飛行機ドローン



【質問】10年程前、七色区で建物を利用して、野菜等を販売したいと申し出た時、耐震性がなかったので使用許可は難しかったと聞いている。

●旧森林組合の建物



- ①住宅取得補助金
- ②空家改修補助金
- ③出産祝い補助金
- ④子供の医療費無料化
- ⑤小中学校での児童生徒の給食費の無料化

議員が村政を問う（一般質問）

Uターンを主とした取り組み

山口 賢二



【質問】これまで村の定住促進条例の目的は、Uターンであった。

現在、地域起こし協力隊も増えているが、全国的に定着率が低いのが現状である。直営事業所の運営が人員的にも適正であるのか？事業所の充実も大切でありそれを踏まえ人員確保のためにもUターン事業に力をいれてほしい。この辺の考え方はあるのか？

【回答】基本的には、北山村で育った人が、将来、故郷に帰り両親の面倒を見ながら一定の職業を得て地域を守つていくことが大切であり、皆様の認識も同じであると思う。ただ、職場の確保で、村の大きな就職先もあるが、Uターンに対しての優先的支援策も必要であり議会とも協議して定住促進を検討したい。

地域起こし協力隊など、契約を切れた後、地域で自立していくのが現実には難しい。仕事の確保の面からも、温泉、北山振興、社会福祉、役場などがあるが、これら限られた仕事の中で、ワークシェアリングなど色んな施策を考えていきたい。 村長

●奥瀬道路II期工事 開通の効果をいかに活かすのか？

【質問】開通に伴う利用客の増加などに効果がある。今後の観光振興の取り組みは具体的にどうなっているのか？

【回答】効果を受けて持って活用することが大切。一弾として、ウエルカム北山村プロジェクトを計画した。その成果を検証した上で、引き続き色んな施策を継続していきたい。一過性のイベントではなく、観光協会とも連携していくつかの周遊型のプランを出し観光客を定着していく必要がある、その成果を出すことで奥瀬道路3期工事実現への弾みとなると思っている。 村長

●支援ハウス居室の増室について

【質問】現時点で増室は何室を予定しているのか？

【回答】5床を増床する案で概略設計と費用の概算を算定することになっている。その結果で、将来の利用人数の予測や敷地の有効性や配置人員等を検討することになる。 住民福祉課長

子育て支援について

葛城 健也



【質問】子育て支援について、今年度、村では6人の子供が生まれ、これは大変喜ばしいことである。ただ、北山保育園の入園年齢が2歳半ということ、殆どの家庭は共働きであることから、女性は、産休、休職、退職など色んなケースがあり、長期休暇のため、親が面倒を見たりするケースもある。更に、仕事の都合0歳保育のある地域に引越したケースもあると聞いている。定住促進の点からも保育所の低年齢保育が必要ではないのか？

【回答】北山村にとつて子供が地域の宝である。この宝を光り輝くものとすることは行政に課せられた責務であると考える。平成27年度から医療費無料化の拡大や給食費の無料化など施策を拡充してきたところであるが、保育士の確保や今後の持続性などの課題もある。保育年齢の引き下げ、保育時間の延長、土曜保育など要望も聞いている。当然、男女共生の社会で女性を活用させるのは国の施策でもある。近隣の市町村の取り組み状況なども参酌しつつ前向きに検討していきたい。 村長

【回答】村の僻地保育所は「原則」として満3歳から」となっている。現在は運用で4月と10月に2歳半に達した幼児の入所希望に対応しているのが現状である。今後、村では出産者も多く、その殆どが共働き家庭となっている。そこで来年度から入所年齢を下げた保育の運営を検討していきたい。そのためにも、保育士2名体制では臨時保育士の確保は困難で、正規保育所の増員は不可欠である。低年齢時の人数によっては更なる臨時の保育士も確保する必要もあり、仮に2歳未満の幼児を受け入れる場合、現在の保育所のほくろ室のスペースでは4名になるので、その辺も含めてできるだけ低年齢に引き下げた形の運営を検討していきたい。 住民福祉課長



長野市防災市民センター & 白馬村視察
災害対策特別委員会

●長野市防災市民センター

江戸末期に大被害を出した善光寺地震と、昭和の松代群発地震が多発した地域として、地震に重きを置いた施設であった。ただ、一昨年に視察した阿倍野防災センターと比べ、展示物は、昭和末期のモノと思しき機器類が多く、古さを隠しきれない側面があった。ただ、長野県は近年、地震が頻発し、余震発生率が国内で最も多いそう、過去の教訓から、静岡く系魚川中央構造線断層帯によるM8クラスの地震を警戒しており、常日頃から防災意識も高く、長野市民の危機管理の高さを窺える伺える施設であった。



●白馬村役場

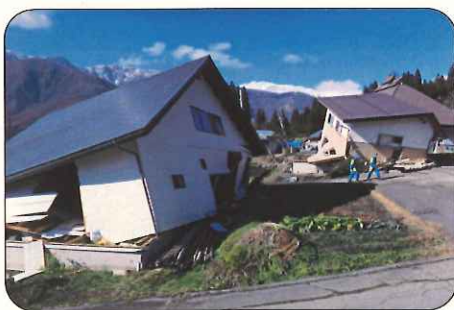
長野市内から大型タクシーにて県道31号を通り約1時間、白馬村役場に到着した。途中の小川村から白馬村神城地区に入ると、広々とした田園風景の中、全壊した家屋や損壊した納屋など、至る箇所で、痛々しい被災建物が目に付いた。この辺は昨年、長野県北部で発生した地震の最も被害の大きかった地域だそうで、まだまだ復興が進んでいないようだ。未だに被災した多くの方が仮設住宅で過ごしているようで、痛ましい現状に、一日でも早い復興を願うばかりであった。

が設置され、数名の職員が忙しそうに対応にわかれていた。研修前に、亀田議長から、北山村を代表して、白馬村被災者の方への義捐金が手渡された。次いで、白馬村議会の横田議長から、多くの復興支援への感謝の言葉と我々視察団の訪問に対する歓迎の挨拶が行なわれた。研修会では、今回の地震で最も被害の大きかった地区の一つ、前三日市場区長の太田史彦氏から、「長野県神城断層地震時における地域住民の活動」を題とし、当時の地震の状況や災害対策について講演が行なわれた。

地震で、特に激震があったとされる堀之内地区や三日市場地区では、家屋全体が宙に浮き「ドン」と地面に叩き付けられた感覚があったそうで、体感では震度7弱を記録したのではないかという説明があった。家屋の被害として白馬村だけで、全壊建物33棟、半壊建物60棟、一部損壊建物684棟。ただ、これだけの被害にも関わらず、重傷者10名、軽傷者36名で、死者は発生していない。地震直後に地域住民の行った迅速な対応（安否確認や救助活動）は賞賛され、甚大な建物被害にもかかわらず犠牲者はゼロという、住民連帯と適切な自主防災活動が「白馬の奇跡」とまで呼ばれ話題になった程である。

白馬村役場に到着すると玄関先では、総務課の大田主査を始め、白馬村議会の横田議長が、我々一行を出迎えてくれた。このような多忙な時期に、快く視察を受け入れて頂いた白馬村関係者には、申し訳なく感謝の思いであった。3階の会議室に案内されるが、同じ階には、生活再建支援本部

「長野県神城断層地震」と称されている。北アルプスの麓の静かな白馬村のまだ雪のない夜、平成26年11月22日（土曜日）午後10時8分、長野県北部を震源（深さ5km）とするM6.7の地震が発生した。白馬村では、神城断層（約26km）の一部（約10km）が動いたと推定され、記録では震度5強の



「自助 共助 公助」が一体となつて、災害から身を守ったことは、多くの人が後に知るところであり、住民たちは基本通り、落ち着いて身の安全を確保（自助）し、安全が確保できた人は、向こう三軒両隣へ声を掛け安否確認（近助）し、家の下敷きになっていた人を、連係プレーで迅速救助（共助）したとされる。結局のところ、災害時における住民の的確な対応と自主防災組織の事前準備に尽きるもので、地域コミュニティの力でもあり我々のような山村僻地の見本とするところでもある。



地域が主体となつて、AED訓練や心配蘇生法講習会、防火・防災訓練を日常的に行っていることや、災害時の要援護者台帳が整備され、災害時の住民支えあいマップとして、要援護者の情報を的確に把握し、何処にだれがいるか、誰が誰を助けに行くか、緻密な救助活動が瞬時にとれる体制が整っていることなど、見習うべきものも多く、北山村としても、村民への情報提供や防災教育、

コミュニティの育成とあった、ソフト対策についてもっと充実を図りたいところである。最後に亀田議長の御礼の言葉にもあったが、「災害対応における自助・共助の果たす役割の重要性を改めて認識させられた。地域防災活動への教訓にすべく、自主防災体制と地域コミュニティの向上のため、我々北山村としても今以上取組まなければならない。防災対策・災害対応を考えるうえで「自助 共助 公助」を今一度考え、村の防災体制の向上を図りたい。」これは今回の研修会を通じ委員共通の感想でもあった。

「良い本との出会い」

北山村商工会 萩本英明



数日前、某議員さんから、「議会だより」の村民登場に掲載する記事を書いてほしいと頼まれ泣く泣くの投稿です。これまで、色々な人物紹介もさることながら、村民の仕事や生活、人生観といったものを、毎回楽しく拝見させて頂いております。自分の番となり、年相応の内容で無ければと思うばかりで一向に筆が進まず、悩んだ末に、商工会という仕事柄、「商工業の経営改善と地域の発展について」を題材にしようと、議会事務局に相談したところ「そんなのはNG。他で書いてくれ！」ときっぱり断られました。発行情限もあり急かされるしどうしたものかと悩んでいたところ、実は2日間、検査入院をしまして、その病室で限りなく時間が有り、今回のこのようなタイトルのコラムを執筆しております。

★五十も半ばを過ぎ、これからの人生を考える年となりました。体力的にも精神的にも若い頃とは明らかに違うと否が応でも実感しています。過去を振り返ったり、これから先は？などと真剣に考えることもなく日々過ごしてきましたが、ある時期から読書に真面目に取り組むようになりました。これから先の『自分』を考えた時、若い頃からもっとたくさんの本を読んでいたらと後悔しつつ、ジャンルを問わずその時手にした読みたいと思う本を読むようにしています。

ネットやテレビで知識を得ることも多いのですが、やはり本から得る知識は別格であり大事です。そこで最近読んだ中から、気に入った本を紹介したいと思います。

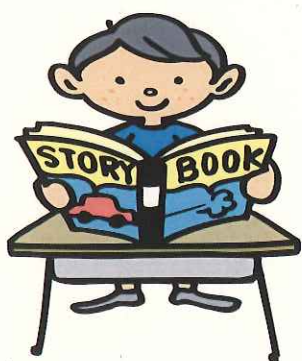
一年程前、次男が学校を卒業し沢山の荷物を持って帰ってきた時のことです。その荷物の中には少しの教科書と沢山の漫画本がありました。「いい年こいでまだ漫画かい。」(反論はあると思いますが。)

『ラセン』の著者で鈴木

光司氏の『なぜ勉強するのか。』というタイトルの本が目にとまりました。どうしてこのような本があるのか次男に尋ねると、「学校に合格したとき入学までに何冊かの本を読んでもくるよう指示があり、その中の一冊や。」とのそつけない返事がありました。私は、「今ごろ勉強のする意味を知ってどうする。もともと勉強に対するモチベーションなどあったのだから。」と内心次男を小馬鹿にしたのですが、それでも親としての好奇心から、次男の読んだ本が少し気になり早速読んでみることにしました。それには著者いわく、理解力、想像力、表現力を向上させ、リテラシー(読み書きなどの能力)を身に付けるために勉強しなければならぬと言っています。理系の勉強をしても直接社会に出て役に立つことは少ないと一般的には言われていますが、数学や物理、化学を勉強することで、理解力(読解力)、想像力を養うことはできるそうです。また、同じように歴史の年表を覚えても、歴史学者にならない限り活かされることはないかもしれないが、それを覚え一連の事柄の流れ、時代背景、その時代の人々の動きを頭に入れることで理解

力を身につけ、理解した事柄のイメージを広げ、自分なりの思考をすることで想像力が養われます。それにかかわることを自分の見解、言葉で軽快に書き表すことで表現力が養われるとの説明がありました。そもそも勉強の目的とはより良い回答を発見する可能性を高めるもので、人類の進歩に貢献するために人は勉強するのだそうです。ややスケールの大きな結末でしたが、その一歩としてまずはコミュニケーションの手段である『読む』『聴く』『話す』『書く』これら『国語力』を身に付けることが大切なのです。ただ、次男がどれだけのことをこの本から学んだかは疑問ですが...

次に、この本は私の仕事に役立つのではと買った本の紹介です。著者はセブン&アイ・ホールディングス会長兼CEO(最高責任者)の鈴木敏文氏の『売る力』です。その中で、強く印象に残ったのは「お客様の立場で」考えなければならぬというところでした。「お客様の立場のために」と言いつつも、経験をもとにしたお客様に対する決め付けがあり、無意識のうちに「売り手の立場で」考えていることが多いそうです。「お客様の立場で」考えることで、お客様は次に何を求めているか？答えはいつもお客様の中に有り、心理の中に潜んでいるのだからです。一見同じように見えて、まったく違った答えが出てくる。これを読んだときは目からうろこでした。少しでも興味のある方は是非一読をしてはいかがでしょうか？



議員コラム

「国体に向けて」

葛城 健也



『紀の国わかやま国体』がいよいよ9月26日から10月6日の間、開催されます。昭和42年（1971年）第26回黒潮国体から44年ぶりの開催ということですが、当時の映像を見ますと、市町村のランナーが炬火（きよか）トーチを掲げ走っている映像が流れ、沿道には沢山の人が集まり大変な盛り上がりだったようです。

北山村でもその当時の様子が広報で紹介されており、「聖火、雨の中をひた走る。村をあげて声援接待 喜び合う国体参加」とすごい見出です。聖火リレーが開催された当日は、台風の影響で朝から雨が強く降っていたそうですが、村民から募集した聖火リレー標語『地図にも載らない北山村に炬火の煙が立ちのぼる』と書かれた横断幕が勢いよく沿道に掲げられ、

多くの村民が小旗を振って聖火ランナーに声援を送ったとされます。聖火リレーは、三〇代から五〇代消防団員や中学生達で構成され半そに白い半パン姿で、先導車に続き走っている写真が懐かしい昭和の時代を感じます。また広報誌には、入選した国体標語や中学生の感想文などが掲載され、国体の成功に向けた和歌山県民として、総力を上げた村の協力というものが強く伝わってきます。

時代が変わり、今回の『紀の国わかやま国体』では、正式競技（37）の一つ「カヌー」が北山村で開催されます。県内では競技を行なう施設が限られており、全ての市町村が開催地になっている訳ではありません。県内唯一の村で正式競技が行なわれることは大変意義のあることで、もつと誇らしく自慢してもいいのではないかと思えます。確かに運営経費や人員確保など、全てにおいて大変な苦勞があります。関係スタッフの皆様には、頑張ってもらいたいと思えます。

さて、その「カヌー」競技の大会ですが、渡の七色公園の特設会場にて10月1日から10月4日の間、カヌースラローム（変化に富んだ流れのある川の一定の区間二〇〇m程度に不規則に設定された20前後のゲートで最上流から順番に通過して下る時間を競う競技）と、カヌーワイルドウォーター（流れの激しい川の一定区間一五〇〇mをいかに早く漕ぎ下れるかのタイムを競う競技）が開催されます。

北山村在住の金谷選手、伊藤選手ですが、昨年、北山村で開催されたプレ国体のスラロームの部で共に優勝しました。また、金谷選手は昨年の長崎国体では3位に入賞した実力者で、本大会でも上位入賞が期待される選手です。しっかりと応援して上げて下さい。

また、北山川の特設コースは選手、関係者等からも非常に評判がよく、エキサイティングな大会が見れることが楽しみです。大会には全国各地から選手、関係者等が多くお見えになりますので、北山村ならではの『おもてなし』の温かい心でお迎えし、開催地として恥じない、素晴らしい大会にするためにも、村民一丸

となつて国体を盛り上げようではありませんか。また、国体開催までには村民悲願の奥瀬道路Ⅱ期工事熊野川町九重から玉置口までの5.2km区間が完成します。

昭和56年度に奥瀬道路として事業化されてから熊野川町九重から小松までの間が完成し、小松から下尾井間も道路の拡張で観光バスが通れるようになり、地域にとつて災害や緊急時の交通の確保、観光筏下りやラフティングなど観光振興の発展が期待され住民の利便性も大きく向上されます。また、残り小松から下尾井間約3.5kmの事業化についても引き継ぎ国、県に要望していきます。今後とも、村民の皆様のご支援、ご協力をお願いします。



広報委員より

6月定例会も閉会しました。相変わらず傍聴者はおられません。土日とかにすれば来られるかもしれませんね。

一般質問では各議員が諸課題について執行部に問いました。老朽化した公共施設の撤去や数多い空家対策、UターンやIターンなどの定住促進と併せて子育て支援の促進。また高齢者が安心して暮らせるための支援ハウスの増室や有償運送の高齢者福祉対策など。

一般質問については、質問の諸課題に対して取り組む執行部の姿勢が問われます。各議員の質問は議員全員が共有するものであり、なおかつ執行部も共有するべき課題です。村の財源を有効（負の財産を残さない）に活用し、議会執行部が共に智慧を出すことが課題の克服につながるのではないのでしょうか。

50年来の悲願の奥瀬道路も、9月には開通することでもあり、なお一層活力ある住みよい村づくりの実現に向けてがんばりたいものです。



五桑方面
For Gojo

吉野・大坂方面
For Yoshino and Osaka

津和野方面
For Tsu and Nagoya

奈良県 Nara Pref.

三重県 Mie Pref.

- ① 玉置神社 Tamaki-jinja Shrine 国道 169 - 十津川村道 20km 60分
- ② 谷瀬のつり橋 Tanize Suspension Bridge 国道 169 - 十津川村道 425 - 168 52km 105分

- ① 丸山千枚田 Maruyama Senmaida Thousand Paddies 国道 169 - 県道 40 15km 25分
- ② 鬼ヶ城 Onigajo 国道 169 - 県道 34 - 国道 42 28km 45分

- 和歌山県 Wakayama Pref.
- ① 熊野本宮大社 Kumano Hongu Taisha Grand Shrine 国道 169 - 国道 168 35km 60分
- ② 熊野速玉大社 Kumano Hayatama Taisha Grand Shrine 国道 169 - 40 - 311 - 42 41km 70分

奈良県

三重県

和歌山県



電源立地地域対策交付金事業